

データカードが変わります

＜2013 改訂版・国際海岸クリーンアップ(ICC)データカード解説＞

～これまでの地道なデータの積み重ねがあってこそその新たな展開です！～

2013 年秋の ICC から、データカードが新しくなります。いくつかの品目で統合や細分化がありますので、なぜ?どのように?を解説します。また、新たな日本オリジナル・川ごみ用データカードもご紹介します。

☆ **オーシャン・コンサーバンシー (OC) が国際版 ICC データカードを改訂～その経緯と意味**
ICC では、開始当初から 2000 年までは材質別の大分類によるデータカードで調査をおこなってきました。調査に参加したボランティアに、集めたごみの材質に意識をむけてもらい、分解しにくい材質のごみへの注意を喚起する意図がありました。16 年間の調査で、材質別の傾向は把握できたとして、2001 年からは大分類の項目を、ごみの発生場所別に変更し、いくつか品目についての統合をおこないました。人々の生活がごみと関係していることを、誰かが不適切な処理をしたことを一人ひとりが認識し、対策を講じていくためです。日本では、カードの改訂に 2 年間の移行期間 (猶予) を設けて、全国のキャプテンたちと検討を行い 2003 年から改訂しました。国際版のカードでは、改訂時に材質別の破片の項目が削除されましたが、JEAN ではごみの破片化の問題を注視していくために、その後も調査を続けてきました。2013 年からは、次の展開として、海辺や環境中にいつまでも残り続ける『プラスチック製品』により焦点を絞るために、分類や品目に新たな検討が加えられ、今回の改訂になりました。

☆ 日本版 ICC データカード改訂の要点

- ・ OC の新データカード品目+日本国内上位 20 品目で構成
- ・ OC の新データカード品目でも、国内での報告数が極めて少なく (0, 03%以下) 問題となっていないものは削除 (見つかった場合はその他の欄に記録)
- ・ 品目数を減らし、使いやすさに配慮
- ・ 分かりにくい品目を B 面にイラストで紹介

☆ 日本版 ICC データカードへの反映と変更点 <詳細 2～3 ページ>

1. 大分類【破片/かけら類】(製品の 3 分の 2 未満のもの) は、2.5cm 以上の大きさのもののみカウント
「発泡スチロール破片」も、大小の区別なく 2.5cm 以上のもののみカウント
2. 「ふた・キャップ」→「ふた」と「ボトルキャップ」に分割
3. 「食器 (わりばし含む)」→「フォーク・ナイフ・スプーン」と「カップ・皿」に分割
4. 「ボトルキャップ」「(使い捨ての) カップ・皿」「食品容器」を材質別に細かく分類
 - ・ 「ボトルキャップ」・・・プラスチック/金属
 - ・ 「(使い捨ての) カップ・皿」・・・紙/プラスチック/発泡スチロール
 - ・ 「食品容器」・・・プラスチック/発泡スチロール
5. 「袋類」→「レジ袋」、「紙袋」、「その他プラスチック袋」に分割
6. 「プラスチック・発泡スチロール梱包材」を追加
7. 「くぎ・針金」と「建築資材 (くぎ・針金以外)」→「建築資材 (柱・釘・トタン板等)」に統合
8. 「カキ養殖用パイプ」→「カキ養殖用パイプ (長さ 10-20cm)」と「カキ養殖用まめ管 (長さ 1.5cm)」に分割

☆ 川ごみ用のデータカードもできました! <詳細 4 ページ>

川や湖沼などの漂着・散乱ごみの実状に合わせた、日本オリジナル・川ごみ用 ICC データカード。海岸・海中以外のクリーンアップには、ぜひこちらをご活用ください。カードのレイアウトは違いますが、内容は日本版 ICC データカードに対応しており、国際調査結果に反映されます。

今回の改訂により国際版は、従来の“由来・発生場所別大分類”から、「よく見られるごみ」を中心に「包装材料」「衛生用品」「漁具」「その他のごみ」「小さなごみ」の6大分類に変更されたが、日本版では使い勝手のいい従来の分類を踏襲しながら、＜国際版の調査品目－日本で過去ほとんど報告されなかった品目＋日本オリジナル品目（日本での調査結果上位20品目）＞で構成した。

A面：参加者調査用／キャプテン報告集計用

① 拾うものと調査するもの

調査対象はデータカードにある45品目、回収対象は会場のごみすべて。ただし、「ごみ」として拾うのは人工物だけで、海藻や貝殻などの自然物はその場に残しておく。流木なども小動物の住処になっていたりもするので原則として拾わない。ただし地域によって扱いが異なる場合があるので、各会場の判断とする。

② 『破片／かけら類』

直径2.5cm以上のもののみを調査・・・2.5cmより小さい、スモールプラスチックやマイクロプラスチックは、過去の調査状況を再考した結果、クリーンアップ会場全体ですべてを回収してカウントすることは極めて困難なことから、別途、異なった調査手法による実態把握をすべき時期が来ていると判断。調査手法は今後1年かけて検討していく。なお、この2.5cmという数字は、国連環境計画（UNEP）／政府間海洋学委員会（IOC）のモニタリングガイドラインによるもの。

③ 『陸上活動で主に発生する品目』

陸で捨てられたと考えられるごみ。ポイ捨てや不法投棄、道路側溝や河川を經由して海へ流れ出たごみ。不可抗力でごみになったとしても、環境に負荷を与える可能性は大きい。

a. ボトルキャップと e. ふた・・・「ボトルキャップ」とは、飲料用ボトルのキャップのみを指し、ペットボトル等のプラスチックと王冠等の金属に分ける。「ふた」とは、飲料用ボトルのキャップ以外のものを指し、ジャムなど広口瓶やコーヒー瓶のふた、化粧クリームのふた等が含まれる。

b. 6パックホルダー・・・日本ではほとんど報告されなかった品目のひとつではあるが、昨年製造メーカーが日本に進出し、国内流通の可能性があるので、観察を継続。

c. カップ・皿 と d. 食品容器・・・材質別に分類が細かくなった。ICCの本拠地である米国では、使い捨て型の食器類が非常に多く利用されていることから、細かく調べることになったようだ。

f. 生活雑貨 g. おもちゃ i. 建築資材・・・日本独特の品目。これらは、個別の品目ではなく、およその用途としてひとまとめで数を把握する。

（f.生活雑貨の具体例→台所用用品、洗面・洗濯用品、化粧道具、文具、CD/DVD などなど）

h. 家電製品・・・「家具」はOCの調査品目ではないため、今回の改訂から⑥特記事項の欄に品名・数量を記録する。
※レジンペレット（旧調査品目）・・・②『破片／かけら類』の扱いの変更と同じ事由により、調査品目からはずし、調査手法を今後検討していく。ただし、見つけたときには⑥特記事項の欄に概数を記録する。

※注射器以外の医療ごみ（旧調査品目）・・・報告数が多くないため調査品目からはずした。ただし、見つけた際は⑥特記事項の欄に危険物として品名・数量を記録する。

The form is titled "ごみ調査・データカード International Coastal Cleanup (ICC) Data Card". It contains a table with 45 items, grouped into three main sections:

- ① 破片／かけら類 (直径2.5cm以上のもの)**: Includes items like 破片プラスチック (Plastic fragments), プラスチックシートや袋の破片 (Plastic sheet/bag fragments), 発泡スチロール破片 (Styrofoam fragments), and ガラスや陶器の破片 (Glass/ceramic fragments).
- ② 陸上活動で主に発生する品目**: Includes items like タバコの吸殻・フィルター (Cigarette butts), タバコのパッケージ・包装 (Cigarette packs), 使い捨てライター (Disposable lighters), 飲料用プラスチック (Plastic bottles), 飲料用プラスチックキャップ (Plastic caps), 6パックホルダー (6-pack holders), フォーク・ナイフ・スプーン (Forks/knives/spoons), カップ・皿 (Cups/plates), カップ・皿 (発泡スチロール) (Cups/plates, Styrofoam), ストロー・マドラー (Straws/muddlers), 食品の包装・袋 (Food packaging/bags), 食品容器 (プラスチック) (Food containers, plastic), 食品容器 (発泡スチロール) (Food containers, Styrofoam), レジ袋 (Resin pellets), 紙袋 (Paper bags), and その他プラスチック袋 (Other plastic bags).
- ③ 海・河川・湖沼活動で主に発生する品目 (木炭・釣り関連など)**: Includes items like ふた (プラスチック) (Caps, plastic), 洗剤・漂白剤ボトル (Detergent/bleach bottles), 生活雑貨 (雑貨・ブシ、文具等) (Household goods), おもちゃ (ボール、フィギュア等) (Toys), 風船 (Balloons), 花火 (Fireworks), 家電製品 (Home appliances), タイヤ (Tires), 苗造り用ストラップバンド (Seedling strap bands), プラスチック・発泡スチロール梱包材 (Plastic/Styrofoam packing materials), 建築資材 (柱、釘、トタン板等) (Building materials), 注射器 (Syringes), ルアー (エギ、ワーム) (Lures), ロープ・ひも (Ropes/strings), 漁網 (Fishing nets), 発泡スチロール製フロート (Styrofoam floats), プラスチック製フロート・ブイ (Plastic floats/buoys), かご漁具 (Basket fishing gear), カキ養殖用パイプ (長さ10~20cm) (Oyster farming pipes), and カキ養殖用まめ管 (長さ1.5cm) (Oyster farming tubes).

At the bottom, there are sections for "⑤" and "⑥" for additional notes and remarks.

7 調査会場 キャプテンは、以下もれなく記入してください。□には、✓を入れてください。 [B面]

・グループ名： _____

・調査年月日： _____年 _____月 _____日 _____時 _____分～ _____時 _____分 実質 _____分 天候 _____

・場所の通称名／ふりがな： _____ / _____

・実施所在地： _____都道府県 _____市/郡/区 _____

・参加人数： 12歳未満 _____人 12歳以上 _____人 (合計 _____人)

★集めたゴミの量： 約 _____kg / _____袋； 袋サイズ □中袋(30L) □大袋(45L) □プロックバッグ(1トン)

★調査場所の距離： 約 _____m 奥行： 約 _____m (面積： 約 _____㎡)

・調査場所の区分：
 調査場所 □海岸 □河岸 □湖沼岸 □水中 □水辺以外
 海域(川、湖等は流れ込む海) □日本海 □太平洋 □瀬戸内海 □東シナ海 □オホーツク海 □なし

・キャプテン氏名： _____ □非公開希望
※キャプテン氏名は報告時に公開します。なお以下の個人情報、事務局からのご案内や連絡以外には使用しません。
 電話： _____ FAX： _____ E-mail： _____
 住所： _____ 県 _____ 市 _____ 区 _____ 番 _____ 号 _____ 丁目 _____ 番 _____ 号 _____ 千 _____



④『海・河川・湖沼活動で主に発生する品目(水産・釣り関係など)』

水辺の産業活動(水産業・海運業等)やレジャー(釣り等)などの活動で廃棄されたと考えられるごみ

a.釣り糸 b.ロープ・ひも・・・絡まってしまっている場合は、おおよその数字で。

c.カキ養殖用パイプ d.カキ養殖用まめ管・・・日本オリジナルの調査品目で国内トップ10に入る。発生源が限定される品目である。今回の改訂から、長さ 1.5cm のカキ養殖用まめ管とカキ養殖用パイプに分割。

⑤『次の項目に当てはまるものの記入欄』
 A・B・C いずれの場合も、写真やスケッチがあればぜひ。

A.データカード品目外だが、数量が多く問題となるごみ：A—①品目②個数

B.ごみが原因で死んだり怪我をしたと考えられる動物の被害状況。自然死した動物は対象外：B—①動物名②その生死③原因になったごみ④状態

C.外国で使用され漂着したと考えられるごみの記録。越境ごみの問題を考える上で貴重な資料になる：C—①国名②品目③個数

⑥『感想・意見・特記事項』

感想・意見はもちろんのこと、その他、気がついたことは何でもこの欄(足りなければ別紙)に。今回の改訂で調査対象から外れた品目(下の枠内を参照)の記録や、正体不明のものはここに記入する。

B面：キャプテン記入欄とミニ図鑑

⑦『調査会場』

キャプテン記入欄。報告用に全項目もれなく記入を。
 「集めたごみの量」はできれば計量、無理なら袋の数を記入。
 「調査場所の距離」は海岸や川べりの長さ、奥行は陸側から水辺側の幅、距離×奥行で面積も計算。

※「調査場所のようす」欄(旧記入項目)は、ごみの散乱状況と周辺環境・訪問者との因果関係を考察するために提案してきた項目。地域による差が大きいため統計資料として十分に活用することが難しく、この改訂から調査項目としては外すことになった。気になる点があれば、⑥特記事項の欄に記載を。

⑧分りにくい品目のミニ図鑑。

6パックホルダー、ふた、かご漁具、荷造り用ストラップバンド、カキ養殖用パイプ、カキ養殖用まめ管、プラスチック製フロート・ブイを掲載。

⑨データカードを複数枚使って調査した場合でも、報告用にキャプテンが集計して一会場一枚にまとめること。B面の会場についての情報をもれなく書き込んで、写真・チラシ・新聞記事などもあれば一緒にJEANに送付を。

“今回の改訂で調査対象から外れた品目”

<ICC 対象外>紙片/金属破片/プルタブ/シート類
 /葉きょう/衣服類/くつ・サンダル/電池/自転車・バイク/自動車・部品/潤滑油缶・ボトル/物流用パレット/ドラム缶/釣りえさ袋・容器/電球・蛍光灯/廃油ボール

<ICC 品目だが国内ではほとんど見られない>葉巻などの吸い口/コンドーム/タンポンのアプリケーター/紙おむつ

<日本独自品目>苗木ポット/レジンパレット/注射器以外の医療ごみ/スプレー缶・カセットボンベ/家具

《川ごみ用 ICC データカード(川ごみカード)ご紹介》

☆ 経緯と解説

日本では、海辺・海中だけでなく、各地の河川流域からも ICC に多数ご参加いただいています。市街地や道路の散乱ごみが、川や水路を經由して海に流れ込んでいる現実があり、川と海で連携協力してごみ調査や回収活動を行うことは、とても大切です。

しかし、河川敷等の散乱・漂着ごみは、海辺の漂着ごみとは多少内容が異なり、海辺では多く見つかるものも川ではほとんど見られない場合があります。長年 ICC にも参加いただいている NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラムや、美しい山形・最上川フォーラムと相談の結果、川ごみの特性に配慮した上で ICC の品目を網羅した川版のデータカードを新たに作成しました。

海岸・海中以外の、河川・湖沼等で ICC にご参加の場合は、川ごみ用 ICC データカードをご利用ください。

☆ 海ごみカードと川ごみカードの相違点等

表面：参加者調査用／キャプテン報告集計用



1. 分類は由来別の8大分類
2. オリジナル品目とオリジナル呼称があります。

●大分類ごとのオリジナル品目

- ・飲料・食品の容器包装：飲料紙パック
- ・レジャー・スポーツ：シート、ボール（海カードではおもちに含まれる）
- ・飲食以外の容器包装：スプレー缶・カセットボンベ、プラスチックのふた・キャップ※飲食以外
- ・生活用品：衣類、くつ・サンダル類、電池
- ・破片・かけら：レジンペレット

●オリジナル呼称（川ごみカード←海ごみカード）比較

- ・飲料ペットボトル←飲料用プラボトル／・飲料びん←飲料ガラスびん／・食品の発泡スチロール容器<発泡トレイ、カップ麺など>←食品容器（発泡スチロール）／・食品のプラスチック容器<弁当、プラトレイなど>←食品容器（プラスチック）／・食品のポリ袋<菓子袋など>←食品の包装／・飲料ペットボトルのキャップ←ボトルキャップ（プラスチック）／・その他のプラスチックのふた・キャップ※飲食のみ←ふた（プラスチック）／・飲料ビンの金属キャップ←ボトルキャップ（金属）／・コップ・皿類←カップ・皿／・プラスチックボ

- トル<洗剤・シャンプーなど>←洗剤・漂白剤類ボトル／・買い物レジ袋←レジ袋／・ポリ袋<レジ袋。食品用以外>←その他プラスチック類／・その他の生活用品<筆記用具、かばん、タオル、ビデオなど>←生活雑貨

← 裏面：会場全体として記入する面

○『動かせなかった粗大ごみ』大きくてごみ袋に入らない、重くて運べないというごみは全部ここに。種類・数・場所を記録。

○『国際ごみ調査』日本版 ICC データカード（海ごみカード）では調査品目になっているが、川であまり見られない7品目をB面に記載した。もし見つけた場合は、数量の記入を。

○各グループや会場で自由にレイアウトして使えるスペース

例えば、データカードの調査品目以外に、

- ・地域で把握しておきたい品目や項目の記入欄をつくる
 - ・参加者に感想や絵を描いてもらう
- などなど。会場ごとになんでも自由にレイアウトしてお使いください。